

## 令和3年度第1回高幡地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和3年9月21日（火）9:30～11:30

場所：須崎市総合福祉センター 2階 会議室

出席：委員20名中、15名が出席（代理出席2名含む）

議事：（1）産業振興計画関連会議 年間スケジュールについて

（2）地域アクションプランについて

1）高幡地域アクションプランの進捗状況等について

2）追加・修正等の案件について

（3）産業成長戦略について

1）観光振興の取り組みについて

2）移住促進の取り組みについて

3）関西・高知経済連携強化戦略の取り組みについて

議事（1）（2）（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）  
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）産業振興計画関連会議 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

（2）地域アクションプランについて

1）高幡地域アクションプランの進捗状況等について

（No. 37 四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト）

（長山委員）

雲の上のホテルは、昨年度は国・県・町から色々な補助金があったため黒字だったが、今年  
は経営的には大変厳しい状態だ。説明のあった前年対比のことも大事だが、運営や経営がうま  
くいっているのかが心配である。経営状況が見えるようなかたちで説明していただくとともに、  
重点事業については3年程度の前年対比の数字や説明があるとより分かりやすい。

（田村地域産業振興監）

地域アクションプランは、数値目標を設定し、その進捗状況を報告している。「課題と対応」  
のところでは一定の記載をしているが、人材不足や経営の課題などをしっかり把握して必要な支  
援をすることは大変重要なので、今後は工夫し、十分なお説明をしていきたい。

（No. 36 清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～）

（谷脇委員）

高知県全体でレジャー施設が少ないことが課題だったが、この3月から、津野町でフォレス  
トアドベンチャーの運営を始めている。町では、集客をどうしていくか努力しており、県の方  
にもテレビ媒体などによる広告で助けられている。

ただ、交通の便が悪くアクセスが分かりづらい。若者は SNS をよく使うが、山間部でアンテナ状況が悪いため、現地への連絡もつかないことがある。ドコモや au などの携帯事業者への働きかけはしているが、個人企業への特別な対策はできないとのことで、苦慮している。有事の際の対応の課題もあり、何か支援があるとよい。

また、観光客をただ増やすのではなく、増加によるメリット・デメリットの検証が必要だと思うので、行政と一緒に対応していきたい。

(地域観光課 別府課長)

特に今の若者は SNS で情報を得るため、携帯の電波が入らないのは問題である。県でも、情報政策関係の部署が中心となって、携帯事業者に基地局をつくってほしいと働きかけているので、そういう要望を拾い上げて、携帯事業者に対応をお願いしていく。

#### (No. 35 梶原町の体験型・滞在型観光の推進)

(吉田委員)

梶原町から愛媛県鬼北町までの 1 日 1 往復のバス便がこの 10 月で廃止となったが、観光客や地域の皆さんにとって、県境をまたいでの広域移動には足の確保が大事であると考えている。梶原町から宇和島方面や、33 号線の久万高原町方面への定期便が確保していけると、観光客も移動しやすいのではないかと。

地方のバス路線の乗り継ぎによって旅行するテレビ番組も流行っているし、自転車を乗せてのバス移動なども考えられる。この地域を含め、行き来に必要な足の確保を皆さんと一緒に考えていきたい。

(田村地域産業振興監)

高幡エリアはさまざまなプロジェクトが始動し、近隣県の方も注目している。他県からの足の確保について課題を整理し、地元の方とも意見交換しながら、関係部局と一緒に検討していきたい。

#### (No. 14 津野町森林・林業再生プロジェクト)

#### (No. 36 清流と風と歴史に会えるまち津野町まるごと体感！～観光集客アップ作戦～)

(大地委員)

天狗高原や長沢のアスレチックがきれいに整備され、観光客も非常に多くなった。天狗高原宿舎も整備されたが、そこに通う公団幹線林道は視界が悪いところがある。

市町村が連携して観光振興を考えていかないと、一つだけでは絶対に高知県へお客さんを呼び込むことはできない。道がきれいに整備されていることも観光振興に必要。

「朝見谷のストックヤード」は、地元の林業振興に大いに役立っているが、高齢化で跡を継ぐ若者がいない。林業振興を図っていくためには、若者の林業従事者の養成や、若い人たちが林業に取り組みやすい環境整備が必要である。

林業大学校から卒業生が 4 人ほど組合で働いているが、津野町出身の若い人は林業に従事していない。町内の自伐林家の方も高齢化で業をやめるなど、どんどん林業に従事する人が少なくなってくる。今のうちに過疎化の進行を止めるような、林業、農業、商業、工業、あらゆる部門へ若者・後継者が残れるような政策を打ち出してほしい。

(須崎林業事務所 中島所長)

林業大学の卒業者は、各種事業体へ就職をしているが、家の事情でやめる人もいる。県としても、毎年卒業生をフォローして、何が足りないのか確認し、定着していくような施策を打っているのでは、ご協力いただきたい。

(水産試験場 岩崎場長)

約3年前に立ち上げた一般社団法人高知県漁業就業支援センターが主体となり、担い手の確保をしている。一方で、漁業資源の減少もあり、研修後の着業が厳しい状況にある。水産の方としても、漁業就業者の確保は重要であり、漁業の漁法の見直しなどの取り組みをしている。

(須崎農業振興センター 伊藤所長)

県では農業大学校と、四万十町に担い手育成センターがあり、高卒の方は農業大学校で、社会経験のある方は担い手育成センターで研修し、県内の各産地で就農している。

国の制度資金を活用し、研修中2年間は年間150万円の資金援助、就農してからは5年間、150万円の援助がある。就農後は、農業振興センター等で生産技術向上のバックアップ・指導を行い、農協と連携して進めている。

須崎農業振興センター管内では、年間40名程度の新規就農者がおり、中でも、二世代目で帰って来る方など、地縁者のIターンが多い。

新規就農者確保のため、市町村が行う移住相談会でPRしたり、コロナ禍でオンラインでの面接・相談を行ったりしている。

だが、実際に来てもらう人には、空き家やインフラ、交通手段、公共施設も重要になってくるため、移住や観光も含めて連携して取り組んでいく。

## 2) 追加・修正等の案件について

(山岸委員 (代理))

「海のまちプロジェクト」は、須崎市の海のまちという視点で、須崎市の魅力の再発見やハード・ソフト両面の整備などを行い、誘客を図っていく取り組みである。その整備された施設をいかに使い運営していくか、奥四万十エリアや県内に波及させていくか、民間も力を出し、関係者の皆さんと一緒に取り組んでいきたい。

須崎市観光協会の主力商品は修学旅行の受け入れで、コロナの影響で四国に目が向いている今がチャンスである。10月以降たくさんの修学旅行生が来るので、重点的に取り組んでいく必要がある。

また、個人やファミリー、小グループの旅行にも手を広げ、海のまちプロジェクトと連携して、皆さんと一緒に誘客やPRに全力で取り組んでいきたい。

## (3) 産業成長戦略について

### 1) 観光振興の取り組みについて

意見交換等、特になし。

### 2) 移住促進の取り組みについて

(玉川委員)

移住者の増加もありがたいが、本来後継者になる者が外へ出て行ってしまっているのが現状だ。稼げる農業、林業、畜産業をつくって、中山間で稼げるようにしないと、地元の若い人は県外で就職してしまう。

移住者は当然必要で、移住促進もやるべきだが、地元で生まれ育った人が残るような施策をしないといけない。

林業でも、畜産業でも、農業でも、ある程度の規模で稼げる場所は後継者がいる。後継者を育てていくために、稼げるスタイルをつくっていかないといけない。農業・林業・畜産業ひっくるめて複合的に行うようなやり方を、意見を出し合って考えていかないといけない。

(移住促進課 伊藤チーフ)

県内の若者に県内で就職してもらうことも非常に重要であることから、教育委員会などと連携し、中学生・高校生ぐらいの早い時期から、県内の仕事について知ってもらう機会をつくることも必要だと思う。

各産業分野の方と、担い手確保について連携する会を2カ月に1回程度設けているが、移住者は全国規模のフェアできっかけをつかむケースが多いと聞くので、高知県の農・林・漁業の魅力の可視化など、各分野の方と連携して情報発信をしていきたい。

また、20代の若い移住者の方にも活躍してもらっているので、そういう事例を県内の若者に知ってもらう機会もつくっていったらと考えている。

(田中委員)

久礼の町も、鯉乃國プロジェクトのおかげで、漁業も一定の衰退を止められるようにはなったが、結局後継者が育っていない、育てなければいけないという状態。

漁業は、稼いでいる方もいる夢のある職業だが、漁師は所得をオープンにしないため、苦しい、しんどい、所得が低い職業とわれてしまう。

名前を出して所得をオープンにすることはできないので、所得層ごとの割合を示すなど、具体的な数字を出した方が説明しやすいのではないか。

この会自体は行政の方々、長の方々が来られるべきだが、各地域ごとに若手を集めたこのような会があると、県の施策の説明を聞いて刺激を受けたり、自分の仕事の方向性を考えたりすることで、若手の経営者が育つ可能性があると思う。

(田村地域産業振興監)

若い人たちに、苦しい、しんどい話だけではなく、所得などのデータや、山や海でどういう生活をしていくのかを具体的に示していくことと、県の色々な会議の説明の場に、若い人にも大勢参加してもらおうこと、この二つの提案は、大変貴重な意見だと思う。どのようなことをやっていったらいいのか、関係者と検討してみたい。

- 3) 関西・高知経済連携強化戦略の取り組みについて  
意見交換等、特になし。

(以上)